

自己評価表（令和6年度）(最終)

上浮穴高等学校

学校番号 (27)

教育方針	地域の期待に応えるため、高校生として、徳・知・体の調和のある人間づくりを目指すとともに、生徒一人一人をみつめ、その資質・個性に応じた教育を行う。		重点目標	「共に創ろう誇れる上浮穴高」 ～励ましの言葉が響き合う学舎を目指して～ 1 創造力と傾聴力、人を思いやる心の育成 2 確かな学力の育成と進路指導の充実 3 基本的な生活習慣と実践力の育成 4 地域に開かれた信頼される学校づくり		
領域	評価項目	具体的目標		評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	基礎学力の定着	教師	ICTを活用したり、個別指導を充実させたりすることで、一人一人の実態に合った指導・支援を行う。	B	「よくできている」14%、「だいたいできている」86%。	オンライン授業、課題の提出や回収、アンケート等を当たり前に教員ができるようになり、環境も整備されて、普段の授業でも端末が普通に使われている。今後個に応じて課題を端末で提出したり、思考力を高める授業の質を追求したい。
		生徒	ICTを活用した学習方法の定着を図る。	B	「よくできている」42%、「だいたいできている」55%。	
		数値目標	1人1台端末の週5日以上利用。基礎課外受講者ゼロ。	B	授業やHR等、様々な場面で一人一台端末を利用している。	
	家庭学習の習慣化	教師	ICTを利用した課題配信に努める。	B	「よくできている」32%、「だいたいできている」64%。	Classi・Teamsを併用して課題配信等を行っている。家庭学習時間は徐々に伸び始めたので、集団の勉強しようという雰囲気を醸成しながら、さらに家庭学習の習慣化を図りたい。また、やらせっぱなしになることがないように、課題にはスピード感を持って評価し、返却してやる気を育てたい。
		生徒	ICTを利用した家庭学習に努める。	C	「あまりできていない」「できていない」が58%。	
		保護者	家庭での学習環境の整備をしていただく。	B	「よくできている」17%、「だいたいできている」43%。	
		数値目標	平均家庭学習時間 平常時90分以上。考査中240分以上。	B	昨年度、一昨年度の学習時間の調査より伸びている。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。

生徒指導	高校生らしい身だしなみの定着	教師	教職員が一致協力して身だしなみ指導を行う。	B	「あまりできていない」26%、「できていない」4%であった。	今年度、「身だしなみ規程」を生徒とともに話し合いながら大きく変更しているところである。時代の変化に対応して、身だしなみ規程も変え、生徒・教職員が納得できるものにしていきたい。
		生徒	高校生らしい身だしなみをする。	B	「よくできている」56%、「だいたいできている」40%。	
		保護者	子どもに高校生らしい身だしなみをさせる。	B	「よくできている」42%、「だいたいできている」54%。	
		数値目標	身だしなみ指導の生徒合格率 (目標値) 100% (A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	A	全体の合格率は90%であった。	
生徒指導	マナー・規範意識の育成	教師	基本的なマナーを身に付けさせ、社会規範や公衆道徳を守る意識を育てる。	B	「よくできている」8%、「だいたいできている」63%、「あまりできていない」25%。	元気な挨拶は以前よりできる生徒が増えてきているが、教職員から率先して声をかけていきたい。マナーや規範意識という点では、まだまだだと感じていて、相手によって態度を変える生徒も多いので、就職していく生徒も多いので、挨拶や御礼の言葉が自然と出てくるように指導していきたい。
		生徒	適切な言葉遣いをし、校則をはじめ社会のルールをきちんと守って生活をする。	B	「よくできている」44%、「だいたいできている」50%。	
		保護者	子どもに適正な言葉遣いをさせ、マナーや規範意識を持って行動させる。	B	「よくできている」21%、「だいたいできている」75%。	
		数値目標	笑顔で挨拶できる生徒の割合 (目標値) 100% (A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	B	「よくできている」53%、「だいたいできている」38%。	
人権教育特別活動	互いの思いやりと自尊感情の高揚	教師	互いに認め合う集団づくりを行い、生徒一人一人を大切にし、進路実現に向けての進路保障に努める。	B	「よくできている」32%、「だいたいできている」56%。	町外出身の生徒の割合が増加してくるに従い、互いに違いやよさを認め合い、高め合っていくことがだんだんできるようになってきている。今後さらに他者を尊重し合う態度を養っていけるような教育を考えていきたい。
		生徒	互いの「よさ」や「ちがいを認め、また、周りに大切にされていることを知り、自分も含め思いやりをもって人に接する。	B	「よくできている」51%、「だいたいできている」41%。	
		数値目標	差別を「しない・させない・許さない」よう心がけている生徒の割合 (目標値) 100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	A	「よくできている」58%、「だいたいできている」41%。	
人権教育特別活動	学校行事への積極的な参加	教師	学校行事において生徒の主体的活動を引き出す。	B	「よくできている」30%、「だいたいできている」57%。	体育祭・文化祭ともに生徒の積極的な参加が目立った。またグループマッチなども生徒会を中心に主体的に行事を運営しようという態度が見られたので、その部分を大きく育てていきたい。
		生徒	体育祭や文化祭など学校行事に主体的に参加する。	B	「よくできている」47%、「だいたいできている」33%。	
		数値目標	学校行事に主体的に参加している生徒の割合 (目標値) 100% (A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	A	「よくできている」60%、「だいたいできている」36%。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。

進路指導	キャリア教育の充実と 進路先の具体化	教師	3年間を見通した指導で、生徒一人一人の適性を生かした進路を実現する。	A	・「よくできている」30%、「だいたいできている」65%。	4年制大学への進学希望の生徒に対しては早い段階から意識付けが行われ、学習習慣が身に付いていたのでいい結果が出た。就職も売り手市場の追い風の中、順調に内定をいただけた。今後は、地元や森林に係る仕事を生徒が選んでくれるように、学校での意識付けが必要であるが、地元で明るい将来が見いだせる就職先が増えてくれることも重要である。
		生徒	職場見学・職場体験やオープンキャンパスをもとに、希望する進路(進学・就職)を決める。	B	・親の意見、勤務先の立地条件に左右されることがあり、結果早い段階の離職につながることもある。	
		保護者	働くことの意義や進路先について子どもと話し合う機会をできるだけ多く持つ。	B	・「よくできている」47%、「だいたいできている」33%。	
		数値目標	就職内定率、希望進学率 (目標値) 100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)	A	・就職内定率は100%、希望進学率も100%であった。	
面接指導の充実	教師	進路に関する面接機会をできるだけ多く設け、生徒の適性を見出す。	B	・「よくできている」29%、「だいたいできている」76%。	就職及び進学に際しての面接指導は、集団・個別ともに例年通り実施できた。生徒が将来の展望を持つことができるよう、個別最適な面接指導を工夫したい。	
	生徒	進路についての話を教師や保護者と積極的に行う。	B	・「よくできている」「だいたいできている」が69%であった。		
	数値目標	生徒1人に対する年間面接回数 (目標値) 10回以上(A10回以上B8回以上C5回以上D4回以下)	A	・少人数の利点を生かし、1人あたり10回以上の面談を行うことができた。		
開かれた学校づくり	地域交流の充実	教師	交流学习を充実させるとともに、公開講座(カルチャー教室)の実施や総合的な探究の時間(くまたん)を積極的に活用することで、地域のために役立てる生徒を育てる。	A	・「よくできている」57%、「だいたいできている」35%。	今年度は森林環境科のみならず、普通科も地域行事である「くままちひなまつり」の準備やオープニングイベントに全員で関わることができた。
		数値目標	地元、久万高原町役場や地域住民との連携のもと、交流学习の実施(年間のべ20回)カルチャー教室の実施(年10回)地域イベントへの生徒の参加(一人平均1回以上)	A	・交流学習年間25回、カルチャー教室9回(1回は感染予防のため中止)、地域イベント一人1回を達成した。	
	「上高通信」とHPの充実	教師	「上高通信」の確実な作成と、HPは日々更新により、保護者だけでなく町民の方々に広くアピールできるような広報活動をする。	A	・全員で担当して確実にHPの日記の更新を行った。今年度からInstagramも始め、若い方を中心にアピールできた。	HPのデザイン等整理され分かりやすく、表彰も受けたが、在校生や中学生、直近の卒業生が学校の様子を見るのはInstagramである。今年度から始めたInstagramのフォロワー数も一気に伸びていることから、他校と同様、こちらでのアピールが必要だと実感した年度であった。
		生徒	「上高通信」・HPの閲覧を習慣化する。	C	・「あまりできていない」「できていない」が42%いる。	
保護者	「上高通信」や本校のHPの閲覧を習慣化する。	A	・「よくできている」42%、「だいたいできている」42%であった。			
数値目標	上高通信年間12回発行 HPアクセス数平均300/1日	B	・上高通信の発行等は計画を完遂することができたが、HPアクセス数は伸び悩んだ。			

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。

開かれた学校づくり	学校行事や授業の公開	教師	体育祭・文化祭・授業公開・PTA行事等に際して、生徒の主体的な活動を見せられる企画・運営を行う。	B	・アンケート結果で「よくできている」23%、「だいたいできている」71%となった。	・生徒の活躍の場に保護者、地域の方に多数お越しいただき大変よかった。授業公開については、実施方法を含め、多くの方にきていただけるよう考えたい。
		保護者	学校行事や授業公開に参加し、学校活動への関心を高めていただく。	B	・アンケート結果で「よくできている」23%、「だいたいできている」71%となった。	
		数値目標	学校行事・授業公開への保護者の参加率50%	B	・体育祭・文化祭には保護者のみならず多くの地域の方に今年度もお越しいただいた。授業公開への参加は低調であった。	
働き方	業務改善	・学年団・教科・各課内での情報交換や連絡を密にし、仕事の質を上げる。 ・IT機器等の有効利用や、仕事の重要度・緊急性の観点から仕分けや整理を行い、業務の効率化を図る。		A	・各部署で連絡を密にし、効率的に仕事を行うことができた。なるべく無駄を排すという意識も教職員にあり、合理化が進んでいる。	・限られた教職員への仕事の集中が課題として挙げられるが、なるべく教職員全体で学校の教育活動を共有し、一体感を持って仕事ができるように取り組んでいきたい。
	勤務時間の順守	勤務時間外在校時間を毎月45時間以内とする。 100%(A87%以上B86~54%C53~21D20%以下)		B	・1か月あたり平均7名(34名中)程度の教職員が45時間を超えている。主に部活動指導を熱心に行っている教員である。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:成果がなかった)とする。